

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600355		
法人名	医療法人杏林会		
事業所名	グループホームみみつ	ユニット名	杏
所在地	宮崎県日向市美々津町3870番地		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果市町村受理日	平成26年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanji=true&amp;ijyosyoCd=4570600355-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanji=true&amp;ijyosyoCd=4570600355-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年8月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・美々津地区出身の入居者様が多く、行事の時は地域の方々の参加が多い。母体である病院も、地域医療・地域への貢献を大事にしている。また、病院が同じ敷地内にあるので、緊急時の対応が夜間でもすぐにできるし、重度になっても対応できる。  
 ・広く明るい環境で、ゆっくりと穏やかに毎日を過ごして頂きたいと思っている。  
 ・基本理念に沿った援助をします。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、隣接している母体病院の敷地内にあり、医療との連携もスムーズで、家族はもとより、利用者も安心して生活している。基本理念を大切に、利用者へ寄り添う日々の支援がなされている。庭には季節の花や野菜も植えてあり、職員は利用者と共に調理に使ったり工夫をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを良く聞いており、信頼関係ができている。
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	杏	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に沿った援助を心掛けている。要介護1～5までいらっしゃるが、個別対応で、一日に1回は関わりが持てるよう心掛けている。	3年前に分かりやすい理念に変更しており、職員会議などで理念の共有を図っている。理念を基本に、日々の支援に生かせるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、美々津出身の入居者様も多く、行事やお祭りへの参加、地域の交流の場(健康サロン)へ出かけ、体操等に参加している。	地域の利用者が多く、地域の行事や祭りなどに出掛け、また、地域の健康サロンにも利用者と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の度に地域の方々へも案内をし、参加してもらい、触れ合うことで、認知症の理解・支援の方法を理解してもらっている。少しずつ地域の方の参加が多くなってきた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回活動報告をし、意見交換をしている。出た意見は参考にし、改善する点は見直している。家族の参加率が増えてきている。	運営推進会議には、家族の参加も増えており、毎回課題シートを作成し、発表している。参加者から出された意見を職員間で検討し、支援の向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席やサービスの不明な点などをお聞きし、指導をおおいでいる。活動内容報告で、職員の取り組みと入居者がものが分かりにくいと指導があり、報告の仕方を変更した。	日々の支援の中で分からないことを、直接市の担当者に電話し、尋ねるなど、連携ができています。また、利用者の状態の変化も伝えるなど、情報の共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、出来るだけしない方向でケアしたいが、転倒のリスクが高く、ご家族も転倒・骨折を避けたい意向が強く、1名了解のうえで、4点柵を使用している。	玄関は日中鍵をかけず、利用者の見守りに配慮している。現在、ご家族の希望もあり、夜間に4点柵を使用している利用者がいる。	利用者の状態や思いをくみ取る工夫を職員間で重ねながら、4点柵を外していけるよう期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修には参加している。事業所内での虐待はない。			

宮崎県日向市 グループホームみみつ(杏)

自己	外部	項目	自己評価	杏	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を利用されている入居者がおり、良い学びになっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項を説明し、文書を渡している。不安な点、分からないことなどの疑問に答えるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、質疑応答、意見交換の場を毎回設けている。出た意見は、運営に反映するようにしている。	会議には、家族の参加も多く、また、来訪時にも意見を言いやすい雰囲気作りに留意している。例として、会議の際に出された意見が、職員か否か分かりやすくするため、ご家族から字体に変化をつけたらと案が出され、反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームの職員会を月末に実施。母体病院の業務検討会が月初め、介護事業部会が月の中旬にあり、管理者が出席し、グループホームの意見を代表者に聞いてもらえる機会がある。了解がもらえれば、運営に反映していくよう努力している。	ホームで研修会などを設けているが、職員の要望から、外部研修後の伝達講習も行うなど、意見が反映されている。また、母体病院の会議にも参加し、意見や相談しやすい雰囲気づくりに配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に各事業所の収支報告を介護事業部会で実施、評価をしてもらう。また、産休・異動・欠員には職員の補充をもらっている。資格取得した職員は給与水準があがる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な研修への出席を働きかけている。実践者研修・リーダー研修へも、参加を勧めている。勉強したいことはないか等、職員から意見を聞き、職員会に取り入れている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム県北部会に4名程いつも参加出来ている。他事業所との交流をすることで、新しい学びがある。			

自己	外部	項目	自己評価	杏	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の表情や言葉から、不安や心配事を把握するように努めている。内容は記録に残し、他の職員と思いを共有できるようにしている。対話の時間を多く持つようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生い立ち、環境などを聞きながら、家族の思い、要望なども受け止め、ケアプランの作成を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みを希望された時点での入所はなかなか難しいので、デイサービスへの通所や配食サービス、訪問介護なども紹介している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩と思い、いろいろなことを教えて貰い、感謝の気持ちを言葉で伝える。また、グループホームで共に生活する者としてとらえている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で連絡をとり、本人の様子などを報告しており、何かある場合、協力して貰える関係を心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、電話を支援している。また、買い物や散歩、馴染みの場所へのドライブなどの外出支援をしている。高齢化や体力の低下により、外出する方が限られるようになった。	利用者のなじみの店へ買い物に出掛けたり、ドライブで自宅を訪れるなど、関係が途切れないように工夫している。また、友人・知人の方が、病院の受診時に訪れることもあり、ゆっくりできるよう配慮がなされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの人や気の合う方と一緒に過ごせるよう席を配慮する。夫婦で入所している方がおり、夫が入院となったが、当病院なのでいつでも面会できる。			

自己	外部	項目	自己評価	杏	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他施設に入所された時には、情報を提供し、その後も相談にのるように心掛けている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランの作成時は本人の思いを観察し、プランに取り入れるようにしている。意向の確認が出来ない方は、家族から聴き取っている。センター方式でアセスメントしている。	日々の関わりの中で、利用者の思いの把握に努めている。センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)も取り入れ、ご家族から協力も得ながら本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初の情報収集や会話の中から、その人の生活歴を把握し、日々の生活に生かせるようにしている。一度きりの情報収集で終わらせるのではなく、日々、経過記録、家族との情報交換に努め、生活に生かせるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録に気付いた事を書き、職員全員がその人のいろんな面を情報として把握するように努めている。また、HDS-Rを出来るだけ行うようにして、認知の進行度を見ながらケアにつとめている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン更新時や変化があった時には、担当者会議を実施し、ケアマネージャーと担当職員、他職種の職員と意見交換、今後の支援の方向性を検討している。	担当者を中心に、日々の関わりの中で、思いや意向をくみ取る工夫をしている。連絡ノートを活用し、日々の気づきを全職員で共有している。介護計画の見直し時には、他職種の方も交え、検討が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録を書いている。経過記録とは別に、センター方式の中の活用シートを活かして計画の見直しや本人の思いを理解し、統一したケアができるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪には、地域の美容室にその都度来てもらっているが、「他の美容室でないと…」と言われる家族には、好みの美容室に来てもらっている。個々のニーズに出来るだけ合うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	杏	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師さん、民生委員さん、区長さん、出来た野菜を届けてくれる方、野菜の配達をされる商店の方々とのつながりを大切にしている。ボランティアで生け花を何年も続けてくれている方もいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が事業所の母体なので、殆どの方がかかりつけ医になっている。他の病院の受診を家族が希望される時や専門の医師の診察が必要と思われる時には、病院より紹介してもらおう。	敷地内にある母体病院が、かかりつけ医となっている利用者が多く、受診や往診の連携が取れている。専門外は紹介をもらい、受診支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常に気付いたら、すぐに職場内の看護師に報告、相談して対応している。医療連携をとっており、情報の共有をして、入居者の健康管理をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携をしており、情報提供表を使用、情報の共有をしている。退院が近くなったら、日中はグループホームで過ごしたり、早期の退院に支障がないよう、退院前のカンファレンスにも参加している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については、医師から入居者の状態を家族に説明してもらい、看取りを何処で行うか、医療的な処置を望むかどうか、家族の意向を聞く。グループホームで看取る場合、どの程度支援できるかを話し、家族の協力が得られるかなど話し合っている。	重度化や終末期には、医師から利用者の状態を家族に説明してもらっている。その説明を基に、家族と職員で検討し、家族の要望に沿うよう努力している。今年、看取りを経験している。	重度化した時や終末期に向け、関係者が意識を統一できるように、意思確認書の作成を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急法の訓練を受けている。母体病院が同じ敷地内にあるので、救急時の対応ができる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、病院全体の避難訓練を実施している。グループホームだけの訓練も1・2ヶ月に1回は計画しているが、完全には実施出来ない。地域の消防団には運営推進会議の委員になってもらい、協力してもらっている。	年2回の法人全体の避難訓練に加え、ホーム独自でも行っている。ホームの訓練の際に気付いた、キャスト付き回転いすなどは、安全のために、作り変えている。消防団の意見をもらい、机上訓練などを定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	杏	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳の気持ちを持って接し、言葉遣いにも注意している。しかし、入居期間が長くなると家族のようになり、言葉も身近な人への声掛けのようになっている。		私語を控えることを職員間で申し合わせ、利用者の気持ちを考え、さりげない声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と同じ目の高さでの援助を心掛け、良い理解者になるよう努力している。本人の意思を尊重し、話をよく聞き、何をどうして欲しいのかを考える。余裕がない時には、出来ないな—と感じる職員もいた。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあった生活を送ってもらっている。無理強いはず本人にまかせる。リハビリ体操などは一緒に行い、楽しくできるように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で更衣出来る方は自分でして貰う。季節に合っていない衣類を着用されている時や自分で選べない方には、2種類を提示し、どちらか選んでもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を考え、誕生日には、リクエストメニューをしている。行事食は未実施。入居者様にも出来る範囲で食材切りや片付け等を一緒に行うようにしている。外食を希望する方は、外食も行っている。		献立は職員が考えているが、希望の献立があれば取り入れており、食材を切ったり配膳など、できることで利用者に参加してもらっている。調査当日、利用者がだんごの粉をこね、おやつとしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期健診の結果や体調の変化時など、管理栄養士よりアドバイスをもらい、食事の形態や量を提供している。たまには楽しみの為、本人の食べたい物を自由に食べたりもする。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして、出来ない方は手伝っている。			

自己	外部	項目	自己評価	杏	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表で知り、羞恥心にも配慮しながら、定時、随時のトイレ誘導をしている。	排せつパターンを把握し、さりげない声かけを行うことで、おむつから布パンツに変更できた方もいる。定期的な誘導により、日中の失禁も少なくなるなど、工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便できるよう、十分な水分補給や運動、腹部マッサージを勧めたりしている。便秘の方でも1回/3日は必ず排便があるようにしている。個人ではヤクルト、オリゴ糖など飲んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴される方もいるが、無理強いはいしない。一人ひとりがゆっくり入浴できるよう考慮している。入浴の時間は、見守りの都合上、夜間はしていない。	利用者の希望に合わせて、ゆっくり入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者に対しては無理強いをせず、声かけに配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の居場所が大体決まっています、そこで自由に休息されている。清潔でゆっくり休めるよう、寝具の洗濯や日光消毒、静かな環境に気を配っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が分薬、前日の夕方夜勤と日勤2名でチェックしている。薬の目的、用法、容量を服薬表で確認しながら、理解に努めている。状態に変化があるときには看護師に報告、相談。医師の指示を仰ぐようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり役割があるが、介護度5の方でも会話をして、一日に一回は笑顔が見られるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は戸外に散歩している。帰宅欲求のある方は、本人の家や近所へのドライブを日曜日に行っている。美々津地区の健康サロンに参加して、地域との交流もしている。	家族の協力も得ながら、外泊・外出支援が行われている。重度の利用者には、車いすで散歩をしている。地域の健康サロンへの参加、また、定期的なドライブとして利用者の自宅周辺へ出掛けるなどの支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	杏	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、管理者、リーダーが預かり、必要な時に支払いをしている。それぞれに小遣い帳があり、面会時に領収書と合わせて確認してもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、要求があればいつでも支援している。手紙や年賀状の支援もしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に季節の花を飾ったり、玄関には季節を感じるものや共同で作った作品を掲示。リビングにはソファを置き、好きな音楽のCDを流したりしている。	玄関や共用の空間には、季節の花や利用者の作品が飾られている。食卓には利用者がなじみやすいようランチマットが置かれるなどの工夫がなされている。畳の部屋もバリアフリーで、利用者がソファやイスなど、好みの場所でくつろげるよう配慮されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓の椅子など、気の合った方と会話したり、一人で居眠りしたり、自分の居場所が大体決まっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具、家族との写真などを飾っている。	居室の入り口には、目印として造花が飾られている。部屋には、なじみの家具や家族の写真などが飾られている。家族が訪れた際にゆっくり座れるソファもあり、落ち着けるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。分かりやすいように、トイレや居室の入り口に名前を表示している。転倒のリスクの高い方には、掛け布団に鈴をつけたり、センサーマットを使用している。			